

IP カメラの継続使用の傾向: メラキ社とヴェルカダ社編



IPVM チーム 著

2019 年 1 月 18 日

<https://ipvm.com/reports/lock-in-meraki-verkada>

ほとんどすべての業務用 IP カメラが、記録、分析、および管理のために様々なサードパーティと統合されているため、オープン・システムと相互運用性が映像監視システムの中核機能となっている。IP カメラ・メーカーがサードパーティとの統合を促進するために努力していることに加えて、ONVIF は 11,000 以上のデバイスが正式に ONVIF に準拠した事実上の標準となっている。しかし、2 つのシリコンバレー企業がその傾向に対抗している。Meraki 社と Verkada 社製品を使用すると、月額料金を支払っている限り、IP カメラをいつでも好きなだけ使用できる。購入した IP カメラは単なるレンガになる。

しかし、両社は IPVM に対し、このモデルには説得力のある利点があると主張している。

本レポートでは、IP 映像監視カメラ・サービスに制限されていることの長所と短所を調べている。